



当センターの理念

リハビリテーション医療の技術を通じ、身体障害者（主に肢体障害者）のQOL（生活の質の向上）に奉仕する。

吉備高原医療
リハビリテーションセンター広報誌

2019年（第121号）

新年のご挨拶

院長 徳弘 昭博

新年おめでとうございます。本年も昨年変わらずよろしくお願いたします。

今年、もうすぐ平成という時代が終わります。年末年始には平成がどういう時代であったか、というテーマのこの30年を総括する番組が多く報道されました。

吉備高原医療リハビリテーションセンターは昭和62年（1987）に診療を開始しました。その歴史はほぼ平成という期間に一致します。設立とほぼ同時期の昭和63年（1988）には瀬戸大橋開通・岡山空港開港と大きなイベントが相次ぎました。また元号が改まったこともあって、われわれは新しいリハビリテーション（リハ）医療をここでやるのだという意志を強くした平成の時代の始まりでした。

その時期世界では、まさに平成元年（1989）のベルリンの壁の崩壊に続いて、平成3年（1991）ソビエト連邦の解体が起こり、冷戦が終結、資本主義経済・市場原理による活動がグローバル・スタンダードとされるようになりました。医療の世界でも医療はサービス業だとされ接遇をはじめとする種々の研修が行われ、また産業活動であったTQMが職場の活動として取り入れられることがブームとなったことも思い出されます。

社会的入院の解消・入院期間の短縮・医療機関の機能分化・DPCの導入・院内感染対策や医療安全の体系化・ITの導入・被保険者の自己負担率の引き上げ・介護保険制度の成立など医療改革が次々に実施されてきました。今思うと平成になったころの医療とは隔世の感があります。

リハ医療にも大きな変化がありました。社会的に画期的であったと思われるのは、平成10年（1998）の長野冬季パラリンピックでした。多くの競技がTV中継され障害を持ったアスリートの活躍が放映され、大会が終わった後には世間の障害を持つ方々に対する認識が大きく変わったことが実感されました。これは今日まで続き、パラアスリートの方々の平成28年（2016）リオデジャネイロの大会での活躍や2020東京オリンピック・パラリンピックに向かう様子が普通にTVなどで見られるようになりました。障害を持った方への認識が大きく変化した時代でもありました。

リハ医療制度に関しての大きな変化としては平成12年（2000）の回復期病棟の新設と介護保険の施行があります。その後体系が順次整備され、病院で行われるリハ医療の大部分は回復期医療として実施されることとなります。地域への復帰に際しての選択肢が増えました。医療機関の機能分化が進み急性期から地域への流れも円滑になったことはリハ医療に携わるものとして非常な進歩だったと感じます。

反面、専門的リハ医療を経由すればさらに身体的機能や社会的役割が期待される方が医療の期間短縮の流れに乗って機能不十分なまま地域に復帰するというような事例もないわけではありません。これは特に脊髄損傷を専門とする我々には大きな課題です。

リハ医学の面では平成18年（2006）発表されたiPS細胞とその移植のような再生医療への期待が高まってきました。脊髄損傷では平成30年（2018）に臨床研究が開始されたばかりですが、移植後の機能回復にはリハ治療が極めて重要な役割を果たすといわれています。平成の次の時代にはその治療法の充実がリハ医療には期待されているのです。

平成の時代を振り返って眺めてみると、医療技術の進歩や医療制度の変化の流れが、またその上での課題が見えてきます。課せられた役割を果たすためには新たな時代に対応した新たな医療や新たな技術に対応した新たなシステムを追求しなくてはなりません。その一方で平成を通じて底流として持ってきた障害を持った方々への貢献、地域への貢献というマインドを途切れさせることなく新時代につないでゆかねばなりません。そんな意思を新たにした新年でした。本年もさらにリハ医療の技術を磨き、また地域医療を充実させていこうと思います。どうぞよろしくお願いたします。



外来担当表（平成31年1月1日現在）

受付時間 午前8時15分～午前11時30分まで

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	内科 1診	津 曲	津 曲	津 曲	津 曲	宮 地
	内科 2診		山 田	福 見	瀧 川	南
	内科 3診					村 上
	神経内科	藤 原				
	整形外科1診	茂 山	徳 弘	茂 山	茂 山	濱 田
	整形外科2診	濱 田			濱 田	村 岡
	リハ科	岩 井	池 田	古 澤	池 田	池 田
	泌尿器科	国立医師				岡大医師
	皮膚科 (完全予約制) 受付時間8:15～11:00		国立医師			
	歯 科	合 田	合 田	合 田	合 田	合 田
午後	内 科	津 曲		津 曲	小 池	津 曲
	特殊外来	筋電図 濱 田				せき損外来 古 澤
	神経内科	藤 原				
	泌尿器科					岡大医師
	歯 科	合 田	合 田	合 田	合 田	合 田

都合により診療日が変更となる場合があります。

当センターでは、医療や福祉の医療機関と密接な連携を図り、患者様に適切かつよりよい医療サービスが提供できるように「地域医療連携室」を設置しております。
紹介患者様に関すること、病院受診について当院に関するお問い合わせなどございましたら、どうぞお気軽にお申し付けください

地域医療連携室の連絡先・業務時間等は以下の通りです。

TEL : 0866-56-7046 FAX : 0866-56-7148

E-mail : soudan@kibirihah.johas.go.jp

月曜日～金曜日 8:30～17:00（祝祭日・年末年始を除く）

吉備高原医療リハビリテーションセンター 広報委員会発行

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川 7511

TEL : 0866-56-7141 FAX : 0866-56-7772 発行担当者 原田（内線 126）

ホームページアドレス: <http://www.kibirihah.johas.go.jp/> E-mail : syomu@kibirihah.johas.go.jp

「高原の虹」のバックナンバーやその他お知らせについては、ホームページをご覧ください。